色彩教材研究会通信　No.309　2022.10.27
発行人：永田泰弘
nagataya@jcom.zaq.ne.jp

●色彩データ・ライブラリの利用ー２
枕草子の色彩

平安時代の色彩を教えたい時に使って欲しいのが、色彩データ・ライブラリの、12ー文学 N-12-88「色名抽出・枕草子」という新潮日本古典集成の「枕草子」から色名を抽出した 41 頁のパワーポイント教材です。

「女性の着物、装身具、持ち物」、「男性の着物、装身具、持ち物」、「人物の肌色、髪、髭、化粧の色」、「自然の色」、「その他の色表現」に分けて、「枕草子」から色名を含む文章表現を抽出した結果を一次分類として示し、二次分類に色名と用例数を抽出しています。

女性の服飾に使われている色名数は 32 色名、112 用例でした。男性の服飾に使われている色名数は 26 色名、128 用例でした。5 分類の合計色名数は 105 色名、合計用例数は 426 用例でした。

これらの結果は、それぞれについて、色票の形で、9 頁のカラー頁の状態で編集したので、どんな色がどんな頻度で使われているかがよくわかります。

学会事務局にお願いすれば、学会員限定100円で送ってもらえます。その後でパワーポイントを編集し直すことも可能です。ルールに従ってお使いください。　（永田泰弘）

源氏物語の色 -40「鈴虫」

光源氏五十歳の年の夏から秋までの物語。蓮の花の盛りに、女三の宮が守り本尊として身近に置いて信仰する持仏を造り、その盛大な開眼供養の場面からこの貼は始まる。

唐の錦の幡、花机の目染めの覆い、後方に掛けた法華曼陀羅、高さのある花を挿した銀の花瓶、白檀で造った阿弥陀仏と脇侍の菩薩、香は唐風の百歩先まで香るという衣香（えこう）などを調えた。

さらに、阿弥陀経は特別に漉かせた美しい紙に書いたもので眼が眩むほどの輝き、罫に引いた線の金よりも墨の跡がより輝いていたと表現されている。

「目染め」とは、布を括るか糸で縫って絞ったものを染液に浸し、括った部分が染まらないことを用いた染の手法である纐纈（こうけち）の別名。括ったところが目のように染残ることに由来する。また「絞り染め」、「括り染め」ともいわれた。この場面の目染めの覆いはまたとない素晴らしさと記されている。

荘厳を極めた法会の彩りと香りが想像される。その仏壇の設えを見て、若くして出家した正妻女三の宮を想い、光源氏が感無量で涙ながらに語る姿が印象深い。

（平山和香子）

●関東支部主催　印刷博物館見学会

凸版印刷（株）の印刷博物館で９月 17 日（土）より開催されている「地図と印刷」および 10 月 1 日（土）より開催されている「現代日本のパッケージ 2022」の２つの企画展を対象に、解説見学会が開催されます。

◆日 時:2022（令和４）年 11 月 12 日（土）14：00 ～ 16：30
◆会 場：印刷博物館（東京都文京区水道１-３-３ トッパン小石川本社ビル TEL 03-5840-2300（代））
アクセスマップ：
https://www.printing-museum.org/access/
◆参加費：企画展入場料 500 円 は当日、博物館受付で各自入場券をご購入ください。
◆申込期限：11 月 9 日（水）まで。
◆定 員：30 名。
◆申込方法：次のフォームから参加登録をしてください。
https://forms.gle/UrDJh21SkyqWXKJ18
◆集合時刻・場所等の詳細は、お申し込み後、メールで改めてお知らせいたします。
◆詳細は、学会メールニュース No.346 か、学会のホームページを参照。この案内は再度掲載。　（学会メールニュース No.346 から引用）